

第5回 保安トップ懇談会（6月6日開催）の概要について

2013年6月7日
石油化学工業協会

最近の保安事故発生状況に鑑み、各社トップによる意見交換と相互啓発の場として2月26日の第4回に引き続き、第5回 保安トップ懇談会を開催致しましたので以下その概要をご報告します。

記

1. 日 時：2013年6月6日（木）13：00－15：00
2. 場 所：化学団体共用会議室（住友不動産六甲ビル 2階A会議室）
3. 出席者：
佐藤 啓喜 日本ユニカー(株) 社 長
月岡 隆 出光興産(株) 副社長
吉高 紳介 電気化学工業(株) 社 長
幸後 和壽 (株)トクヤマ 社 長
伊藤 文大 (株)クラレ 社 長
府川 洋一 日本ポリエチレン(株) 社 長
田中 秀明 経済産業省 製造産業局化学課 課長補佐
高梨 圭介 石油化学工業協会 専務理事

(モデレーター)

田村 昌三 東京大学名誉教授

4. 懇談概要：

はじめに、高梨専務理事から、当懇談会の趣旨及び進め方についての説明に加え、第1回目(11月28日開催)、第2回目(12月5日開催)、第3回目(1月29日開催)、および第4回(2月26日開催)の概要についての紹介があった。

引き続き、田村名誉教授の議事進行にて6社のトップによる保安に係わる意見交換が行われた。

様々な発言があったが、主なものは次のとおり。

- ・ 最近の事故は、Know-Whyなどの技術の伝承に問題があり、運転マニュアルの充実などの対応が必要。また、プロセス安全の観点からのレビューが必要
- ・ 社長の強いコミットメントが大事であるが、伝言ゲームとならないよう、

折に触れて直接伝えて、現場一人ひとりの安全への姿勢を高める必要がある

- ・ 部課長が現場に出て、現場と気軽にコミュニケーションできる文化の醸成が重要である
- ・ 現場のトップが、常に安全に関する刺激を与え続け、緊張感を持続できるようにすることが大事
- ・ 「慣れ」に誘発されるヒューマンエラーが怖い。間違ったら事故になることを忘れないように緊張感を維持する必要がある
- ・ 第三者の目で確認してもらうことも大事であり、定期的に保険会社等の外部のチェックを受けている
- ・ 安全活動は、質も大事だが、ヒヤリハットなど量で評価することも大事
- ・ ベテランが退職し世代交代が進んでいるが、ベテランの持っている暗黙知を文書に残す取り組みを行なっている
- ・ 世代交代によって若い人が増えているが、若い人は教えたことはキチンと行う、コンピューターの扱いに慣れているなどの長所も多い。若い世代の力を引き出すことが大事
- ・ 地域住民を巻き込んで他社と協力しながら防災訓練を行うことも一案

最後に、田村名誉教授から本日のまとめとして「トップの強いリーダーシップのもとに保安対策を一層強化していくことを本日の合意とする」ことの提案が行われ、全員の賛成のもと終了した。

5. その他

今後、昨年11月から行った計5回の保安トップ懇談会のまとめを行う予定。

以上

《本件に関するお問い合わせ先》
石油化学工業協会 総務部（広報担当）
TEL：03-3297-2019